

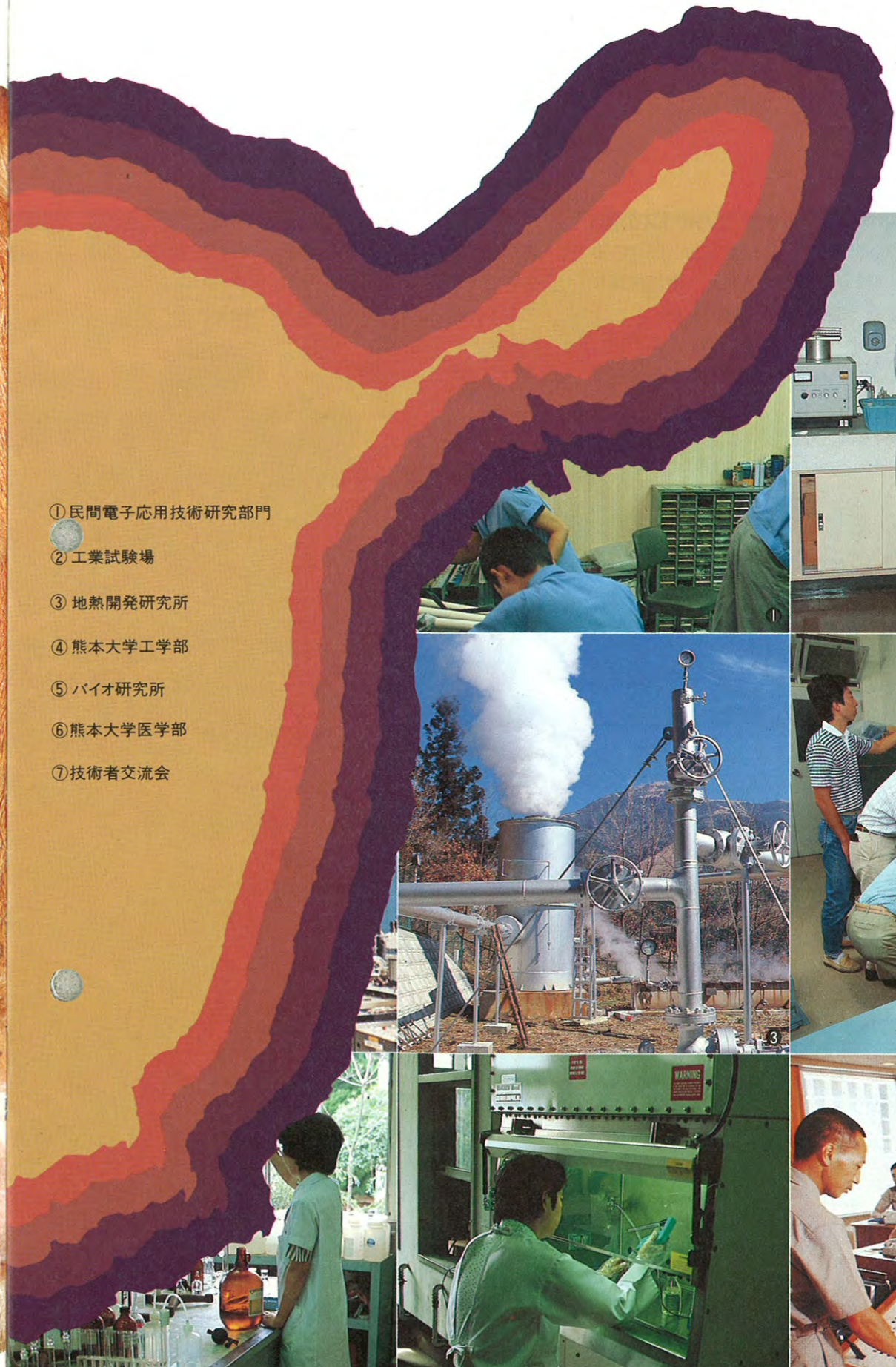
〈産業の革新を—
熊本に根づく研究
開発の芽〉

熊本は西日本一の食糧供給基地として、これまで日本に誇ることのできる多様な品種の農畜産物を生産しています。これを支えるとともに九州の、更には西日本における農業技術の研究開発に指導的役割を果たしてきているのが、県内に立地する農業試験場などの多数の公的試験研究機関です。これらの研究所では、最近特に、テクノポリスで期待されているバイオテクノロジーの農業分野への応用研究も積極的に行われており、この頃話題になった県畜産試験場での試験管ヘビー牛の誕生はその成果の一つです。

一方熊本には工科系の学部を持つ大学3つ、高専2つが設置されており、先端技術の開発にとって欠くことのできない基礎的研究と優秀な技術者を養成していくための地盤は既に出来ています。加えて、熊本工業大学に應用微生物工学科、同修士課程が設置され、また、熊本大学で医学部に続いて、薬学部、工学・理学部系の大学院博士課程設置の準備も進められるなど、熊本テクノポリスの先端産業を担っていく研究開発の態勢は着実に充実してきています。

先端的な技術が日進月歩で成長している今日、生産の場と研究開発の場の結びつきが必要ですが、熊本では、若い大学の研究者、企業の技術者が毎週土曜日、県工業試験場に集い半導体応用技術研究会が持たれています。また、バイオテクノロジー研究推進会、情報産業振興協議会等、産業界、学界そして行政が一堂に会して先端的な技術の研究と生産の場へ応用していくための取り組みが進められているのです。

このように、熊本の産業が、研究開発に支えられて、先端的な分野で全国の拠点として脱皮していく姿を、今、みることができます。



- ① 民間電子応用技術研究部門
- ② 工業試験場
- ③ 地熱開発研究所
- ④ 熊本大学工学部
- ⑤ バイオ研究所
- ⑥ 熊本大学医学部
- ⑦ 技術者交流会

